

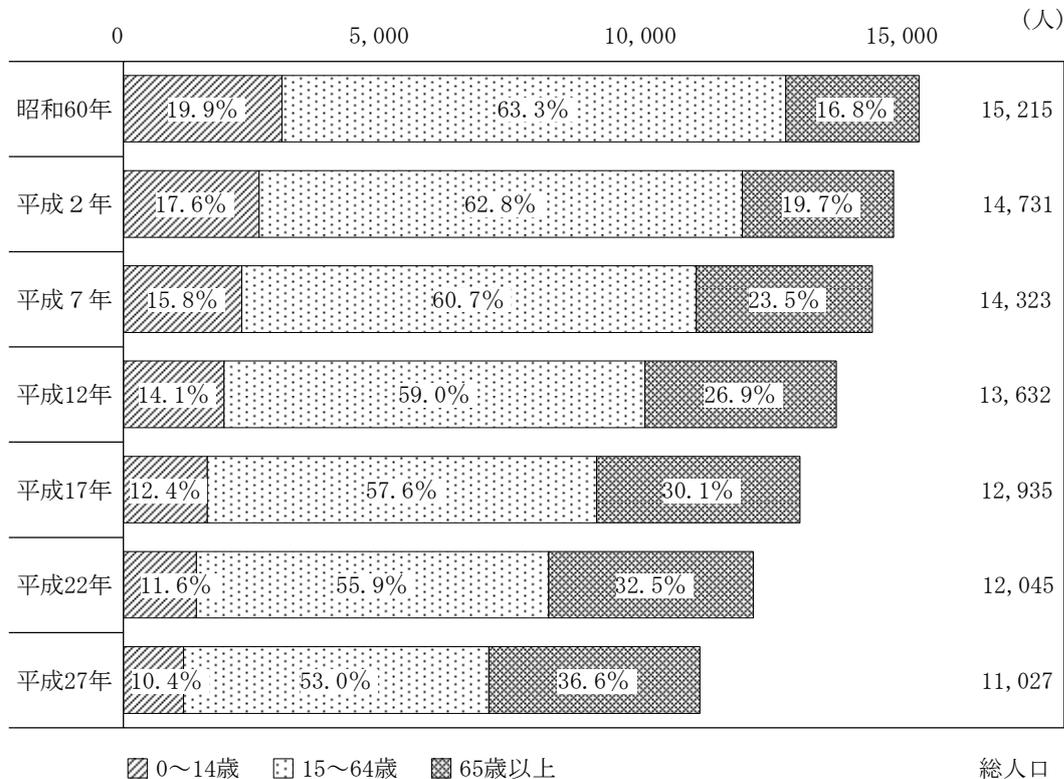
第2章 障がいのある人等の状況

1 人口の推移

国勢調査によると、平成27年10月1日における本町の総人口は11,027人です。総人口は減少しており、昭和60年と比べると4,188人、27.5%減少しています。

年齢別にみると、65歳以上人口の割合は増加しており、0～14歳、15～64歳の人口の割合は減少しています。65歳以上人口の増加は非常に大きく、昭和60年に16.8%であったものが、平成27年には36.6%となっています。

図表2-1 人口の推移



(注) 総人口は年齢不詳を含む

資料：国勢調査

2 障がいのある人の状況

(1) 障害者手帳所持者数の推移

障害者手帳を持っている人の推移をみると、平成26年の896人が最も高く、平成27年から減少しており、平成29年3月末現在では764人となっています。平成24年と平成29年を年齢区分別にみると、18歳未満は若干増え、その他の年齢層は減少しています。

身体障がいのある人は、平成27年以降は減少傾向にあります。知的障がいのある人は増減を繰り返し、平成25年以降は130～140人台で推移しています。平成24年と平成29年を年齢区分別にみると、身体障がいのある人は40歳以上が、知的障がいのある人は40～64歳が大幅に減少しています。

精神障がいのある人は毎年増加しています。平成24年と平成29年を年齢区分別にみると、18歳未満以外のいずれの年齢層でも増加しています。18歳未満で精神障害者保健福祉手帳を所持している人はいません。

図表2-2 障害者手帳種類別の推移

単位：人

区 分	身体障がい のある人	知的障がい のある人	精神障がい のある人	合 計
平成24年	667	155	66	888
18歳未満	6	23	0	29
18～39歳	33	55	12	100
40～64歳	130	53	40	223
65歳以上	498	24	14	536
平成25年	653	138	77	868
平成26年	673	142	81	896
平成27年	569	147	85	801
平成28年	563	130	89	782
平成29年	537	134	93	764
18歳未満	8	29	0	37
18～39歳	26	49	16	91
40～64歳	96	36	52	184
65歳以上	407	20	25	452

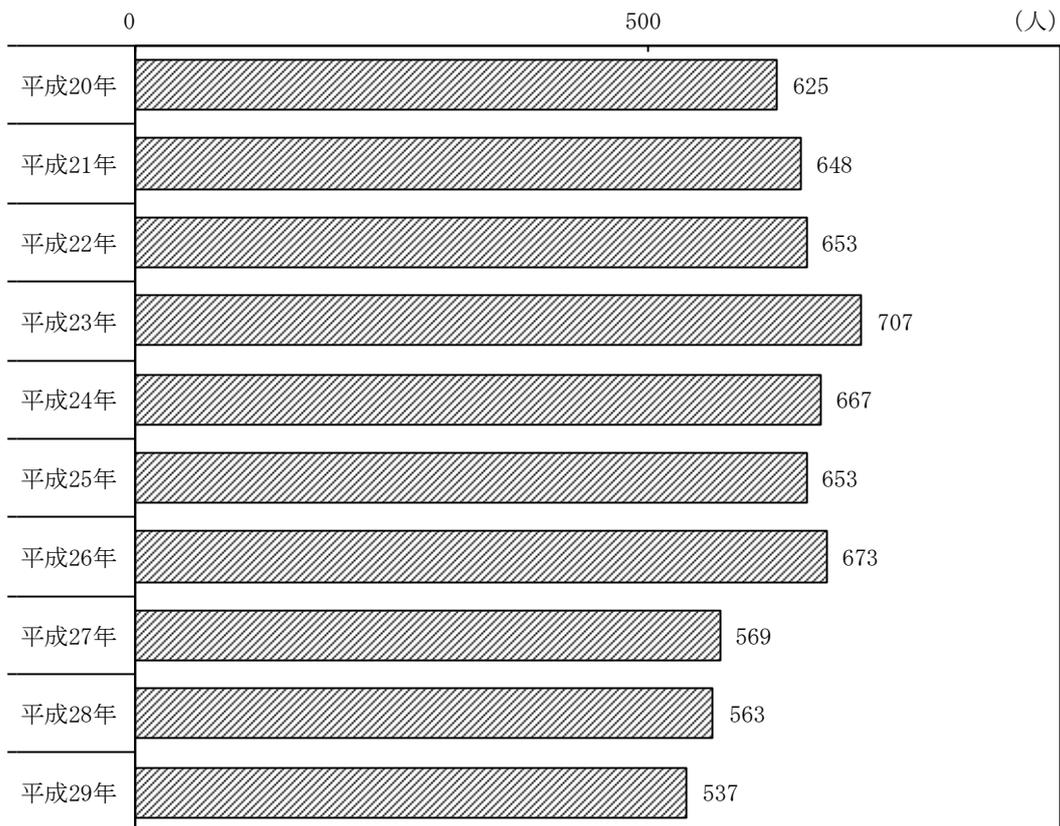
(注) 各年3月末

(2) 身体障がいのある人（身体障害者手帳所持者）

身体障害者手帳を持っている人の推移をみると、平成26年までは600人台で推移していましたが、その後は減少に転じ、平成29年は537人となっています（図表2-3）。

身体障がいの種類別では、肢体不自由が302人（56.2%）と最も多くなっています（図表2-4）。

図表2-3 身体障害者手帳所持者数の推移



（注）各年3月末日現在

図表2-4 身体障がいの種類別にみた身体障害者手帳所持者数

単位：人

区分	視覚障がい	聴覚・言語障がい	肢体不自由	内部障がい	計
人数	38	45	302	152	537

（注）各年3月末日現在

障がい等級別では、最重度の1級が170人と最も多くなっています。障がいの種類別にみると、視覚障がいと内部障がいでは1級、聴覚・言語障がいでは2級、肢体不自由では4級が多くなっています（図表2-5）。

図表2-5 障がい等級別・種類別身体障害者手帳所持者数

単位：人

区 分	視覚障がい	聴覚・言語障がい	肢体不自由	内部障がい	計
1 級	22	5	50	93	170
2 級	3	17	58	1	79
3 級	2	5	68	33	108
4 級	3	8	98	25	134
5 級	6	0	18	0	24
6 級	2	10	10	0	22
計	38	45	302	152	537

（注）平成29年3月末現在

年齢区別にみると、いずれの年も65歳以上の人数が最も多く、平成29年では、407人、75.8%となっています（図表2-6）。

図表2-6 年齢区別にみた身体障害者手帳所持者数の推移

単位：人

区 分	18歳未満	18～39歳	40～64歳	65歳以上	合 計
平成24年	6	33	130	498	667
平成25年	8	28	127	490	653
平成26年	8	27	125	513	673
平成27年	7	28	118	416	569
平成28年	7	27	102	427	563
平成29年	8	26	96	407	537

（注）各年3月末日現在

性別では、男性247人、女性290人となっており、女性の方が多くなっています。障がいの種類別にみると、内部障がいと音声言語・そしゃく障がいでは男性の方が多く、それ以外の障がいの種類は女性が多くなっています。特に肢体不自由では女性が男性より多く、65歳以上の下肢障がいでは男性が36人なのに対して女性は82人と大きな差があります（図表2-7）。

図表2-7 身体障害者手帳所持者数（障がいの種類別・年齢別・性別）

単位：人

区 分	18歳未満		18～39歳		40～64歳		65歳以上		計		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
視覚障がい	0	0	0	0	5	6	13	14	18	20	38
聴覚平衡機能障がい	1	1	1	2	2	3	13	17	17	23	40
聴 覚	1	1	1	2	2	3	13	17	17	23	40
平 衡 機 能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
音声言語そしゃく機能障がい	0	0	0	0	0	0	4	1	4	1	5
肢 体 不 自 由	4	2	8	7	35	25	79	142	126	176	302
上 肢	0	0	1	1	9	2	17	13	27	16	43
下 肢	0	1	3	2	11	8	36	82	50	93	143
体 幹	4	1	3	3	7	7	12	20	26	31	57
上 下 肢	0	0	1	1	8	8	14	27	23	36	59
内 部 障 が い	0	0	4	3	14	6	64	61	82	70	152
心 臓 機 能	0	0	2	3	5	1	34	32	41	36	77
じ ん 臓 機 能	0	0	0	0	8	3	13	14	21	17	38
呼 吸 器 機 能	0	0	1	0	0	0	11	5	12	5	17
ぼ う こ う ・ 直 腸 機 能	0	0	1	0	0	2	6	10	12	7	19
小 腸 機 能	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
肝 臓 機 能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	5	3	13	12	56	40	173	235	247	290	
	8		25		96		408		537		

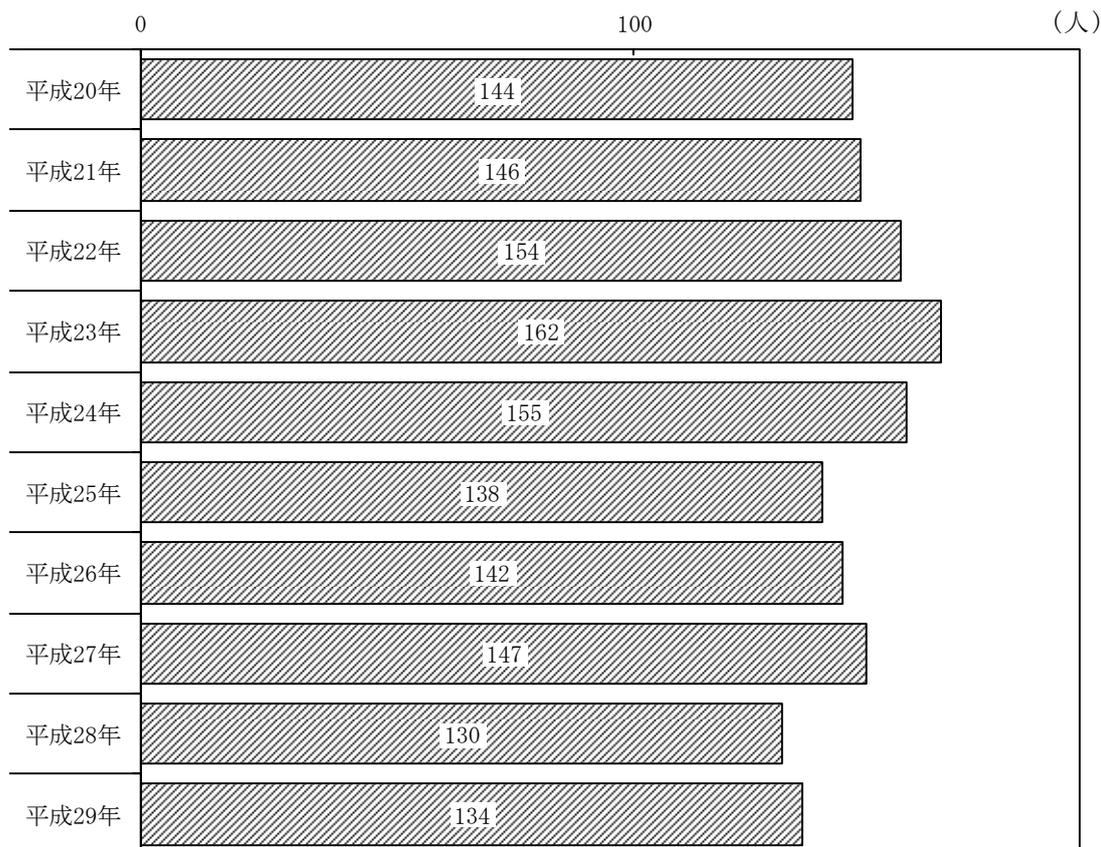
(注) 平成29年度3月末現在

(3) 知的障がいのある人（療育手帳所持者）

知的障がいのある人の推移をみると、平成23年までは増加傾向にあります。平成25年以降は130～140人台で推移しています（図表2-8）。

障がいの程度別では、重度のA、A1、A2より中軽度のB1、B2の方が多くなっています。A、A1、A2は減少傾向がみられますが、B1、B2はいずれも40人前後で推移しています（図表2-9）。

図表2-8 療育手帳所持者数の推移



（注）各年3月末日現在

図表2-9 障がいの程度別療育手帳所持者数の推移

単位：人

区分	A	A1	A2	B1	B2	計
平成24年	28	18	28	39	42	155
平成25年	19	14	24	38	43	138
平成26年	19	14	24	43	42	142
平成27年	19	15	24	47	42	147
平成28年	13	15	18	42	42	130
平成29年	13	15	19	42	45	134

（注）各年3月末日現在

年齢区分別では、18～39歳が最も多く、65歳以上が最も少なくなっています。性別では女性より男性の方が多くなっていますが、65歳以上は女性の方が多くなっています。障がいの程度別にみると、A以外では男性の方が多くなっています（図表2-10）。

図表2-10 性別・年齢別・障がいの程度別療育手帳所持者数

単位：人

区 分	0～17歳		18～39歳		40～64歳		65歳以上		計		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
A	0	0	0	0	2	4	2	5	4	9	13
A1	2	0	5	2	2	3	1	0	10	5	15
A2	3	1	2	3	5	1	2	2	12	7	19
B1	5	3	6	5	11	4	2	6	24	18	42
B2	7	8	20	6	2	2	0	0	29	16	45
合 計	17	12	33	16	22	14	7	13	79	55	134
	29		49		36		20				

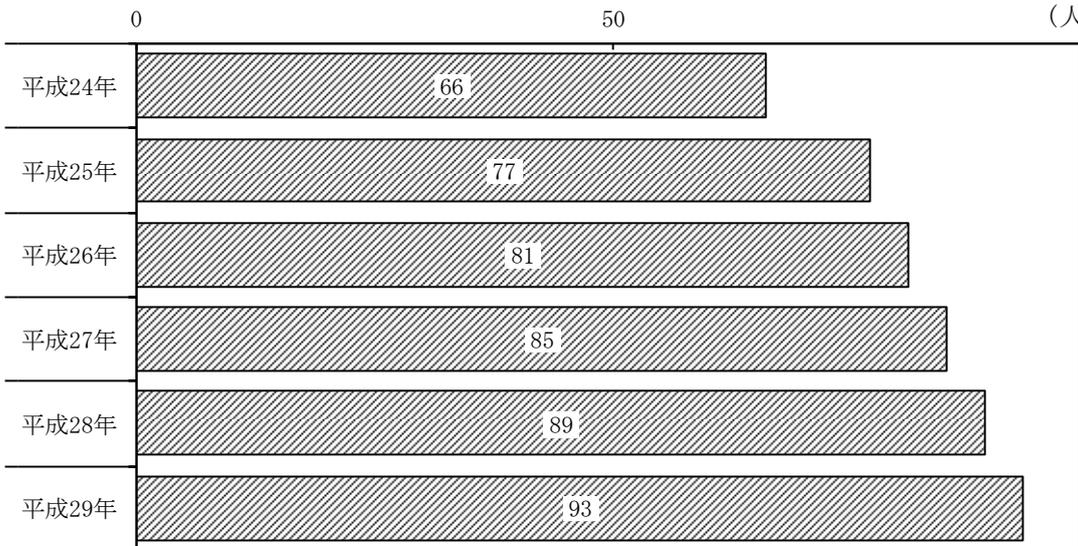
(平成29年3月末日現在)

(4) 精神障がいのある人

平成29年3月末日現在、本町の精神障害者保健福祉手帳を持っている人は93人です。精神障がいのある人は増加しており、平成25年から毎年4人ずつ増えています（図表2-11）。

図表2-11 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移

(人)



(注) 各年3月末日現在

障がい等級別では、平成29年3月末現在、重度の1級が24人、中度の2級が60人、軽度の3級が9人となっています。最も多い2級は全体の64.5%を占めています（図表2-12）。

図表2-12 障がい等級別精神障害保健害者手帳所持者数の推移 単位：人

区 分	1 級	2 級	3 級	計
平成25年	17	53	7	77
平成26年	16	58	7	81
平成27年	15	64	6	85
平成28年	20	62	7	89
平成29年	24	60	9	93

（注）各年3月末日現在

年齢区分別にみると、40～69歳が61人（65.6%）と最も多く、性別では男女ほぼ同数となっています。障がい等級別にみると、1級は男性が多く、2級は女性が多くなっています（図表2-13）。

図表2-13 性別・年齢別・障がい等級別精神障害者保健福祉手帳所持者数 単位：人

区 分	0～19歳		20～39歳		40～69歳		70歳以上		計		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
1 級	0	0	3	0	7	4	4	6	14	10	24
2 級	0	0	5	7	19	24	3	2	27	33	60
3 級	0	0	0	1	4	3	1	0	5	4	9
合 計	0	0	8	8	30	31	8	8	46	47	93
	0		16		61		16		93		

（注）平成29年3月末現在

(5) 難病患者等

平成25年4月から、障害者総合支援法に定める障がい者・児の対象に、難病患者等が加わり、障害福祉サービス、相談支援等の対象となりました。障害者総合支援法における難病等の範囲は、平成27年1月から151疾病、同年7月から332疾病と拡大され、平成29年4月1日から358疾病となっています。また、児童の慢性疾病については、小児慢性特定疾病医療費助成制度が実施され、現在14疾患群（722疾病）がその対象として認定されています。

本町の指定難病認定者数は79人です。疾病別にみると潰瘍性大腸炎が15人と最も多くなっています。小児慢性特定疾病児童数は6人です（図表2-14、図表2-15）。

図表2-14 指定難病認定者数

指定難病名	人数	指定難病名	人数
筋萎縮性側索硬化症	1	成人スチル病	1
進行性核上性麻痺	1	ベーチェット病	1
パーキンソン病	8	特発性拡張型心筋症	2
重症筋無力症	1	血栓性血小板減少性紫斑病	1
多発性硬化症／視神経脊髄炎	4	IgA腎症	1
多系統萎縮症	1	後縦靭帯骨化症	4
脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く)	1	広範脊柱管狭窄症	1
もやもや病	2	特発性大腿骨頭壊死症	2
全身性アミロイドーシス	1	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	1
神経線維腫症	1	サルコイドーシス	8
高安動脈炎	1	特発性間質性肺炎	3
顕微鏡的多発血管炎	2	肺動脈性肺高血圧症	2
全身性エリテマトーデス	2	クローン病	4
全身性強皮症	5	潰瘍性大腸炎	15
混合性結合組織病	1	肥厚性皮膚骨膜炎	1
(注) 平成27年現在		合 計	79

資料：可茂地域の公衆衛生

図表2-15 小児慢性特定疾病児童数

番号	疾患群	人数	番号	疾患群	人数
1	悪性新生物	3	8	先天性代謝異常	0
2	慢性腎疾患	0	9	血液疾患	0
3	慢性呼吸器疾患	0	10	免疫疾患	0
4	慢性心疾患	0	11	神経・筋疾患	1
5	内分泌疾患	1	12	慢性消化器疾患	0
6	膠原病	1	13	染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群	0
7	糖尿病	0	14	皮膚疾患群	0
(注) 平成27年現在			合 計		6

資料：可茂地域の公衆衛生

3 障害支援区分

平成29年3月末現在、障害支援区分認定を受けている人は57人です。知的障がい者が42人と最も多く、73.7%を占めています。支援区分別にみると、身体障がい者、知的障がい者は区分6、精神障がい者は区分3が最も多くなっています（図表2-16）。

図表2-16 平成29年障害支援区分認定の状況

単位：人

区 分		支援の必要度						合 計
		低い ←	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	
平成 24年	身 体	0	0	3	1	2	4	10
	知 的	0	1	0	4	12	23	40
	精 神	0	1	3	2	1	0	7
	難 病	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	0	2	6	7	15	27	57
平成 29年	身 体	0	0	1	1	3	5	10
	知 的	0	0	1	5	12	24	42
	精 神	0	1	0	3	1	0	5
	難 病	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	0	1	2	9	16	29	57

(注) 各年3月末日現在